機巣

同窓会報メールマガジン

Vol. 15 秋号

岐阜工業高等専門学校　機械工学科　機巣会

目　次

P-2　目次　&　会長挨拶

P-4　機械工学科の現状について　機械工学科　山田　実　（24期生）

P-5　OB 紹介シリーズ　異業種で活躍する同窓生

(株)古川工務店　古川　行秀（33期生）

P-7　ラグビーのある世界　吉本　敏彦　（8期生）

P-9　「かぜのたより」

・・・・古典芸能　編　平野　紳二（6 期生）

P-11　雄志寮の宿直を楽しむ　井坂　一男（1 期生）

機巣会から同窓会の補助金をいただきました　飯沼　義徳（7期生）

P-12　編集後記

会長挨拶

中野　廣幸

秋も一段と深まり朝夕の寒気が身にしみる時節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

「食欲の秋」、「読書の秋」と秋にはいろいろと形容がつきますがみなさんの秋は「何の秋」でしょう。私の場合はさしずめ「行楽の秋」ということになりそうです。（次のページに続く）

【前頁つづき】

実は８月の終わりに、突然以下のようなメールが届きました。

Hi
I am visiting Japan from 17th Sept to 1st Oct
I will be based in Nagoya
However I am planning to buy the 7 day Japan Rail Pass
I am wondering if you can help me with a free guide for a one day Trip in Takayama from 10am to 5pm in the evening on 26th or 27th Sept

Thank you so much
Cheers

差出人はアニータさんということしかわかりません。私は、このメールの差出人であるアニータさんとは全く面識がなく、怪訝に思いましたが、とりあえず返信してみました。何度かやりとりするうちに、アニータさんはオーストラリアにお住まいで、高山に行きたいというのはアニータさんの息子さんの希望だとわかり、９月 26 日に高山、白川郷へとお連れすることになりました。
この旅にアニータさんも随分満足されたご様子で、後ほど御礼のメールが来ました。私自身もアニータさんと彼女の息子さんとの旅を存分に楽しむことができましたし、自分の郷土を紹介できたことが誇らしく、とても嬉しく思いました。
なぜ突然私の所へメールが来たのかが不思議ですが、私は通訳ボランティアの団体に登録していることから、偶然に検索にひっかかったのではないかと思います。英語に” serendipity”という言葉があります。これは「素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見すること。また、何かを探しているときに、探しているものとは別の価値があるものを偶然見つけること。」という意味があります。人生には思わぬ出会い、縁、機会があります。今回のこの経験は私にとってとても良い経験になりましたし、まさに「一期一会」とは、このようなことを言うのでしょうか。みなさんのところに今後やってくるいろんな機会や縁をどのように生かされるのでしょうか。

白川郷を望む展望台より

機械工学科の現状について

機械工学科　山田実

機械工学科の外向けのイベントとしてオープンキャンパスと公開講座があります．今回はこの２つのイベントを紹介いたします．

【オープンキャンパス】

今年は８月３日（土）にオープンキャンパスがありました．オープンキャンパスは中学生や保護者が直接岐阜高専のことを知る良い機会になっています．学校全体では 1,300 名ほどの来場者がありました．

機械工学科では教員と５年生，４年生の一部が参加して機械工学科の教育内容，進路先，研究内容などを説明しました．中学生からの質問に学生が答えることによって生の声（良いところも悪いところも）が聞けたと思います．また，卒業生がお子さんと一緒に見学される姿も見られました．

専門科目の教科書展示

ブースに分かれての研究室紹介

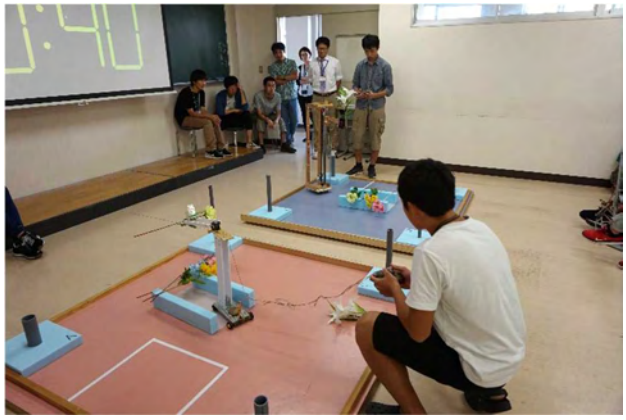
【公開講座】

オープンキャンパスの次の日である８月４日（日）に機械工学科の公開講座を行ないました．この講座は和歌山県などが主催するきのくにロボットフェスティバルの中で行なわれる全日本小中学生ロボット選手権の岐阜地区大会になっています．小学生部門と中学生部門に分かれてそれぞれの競技課題に取り組みました．

８月４日は組み立て講習会を行ない，無料配布されるロボットキットを組み立てました．そして，そのロボットを競技課題に合わせて作り直し，１０月２０日（日）に行なわれた競技会に持ち寄りました．

公開講座の実施にあたり，機巣会からは競技用具代の一部，スタッフのお弁当代を補助していただきました．お礼を申し上げます．

中学生にロボットの組み立て方を教える学生



中学生部門競技会の様子（筒に花をさす課題）

OB紹介シリーズ

異業種で活躍する同窓生

（株）古川工務店　社長　古川行秀　（33 期生）

これまで OB 紹介シリーズとして高専草創期の同窓生を多く取材してきたが、少し若返って油の乗った若手ＯＢに登場してもらうことにした。今回お話を伺うのは、岐阜県養老町にて型枠建築工事を専門とする株式会社古川工務店を経営する 33 期生の古川行秀さん。取材を申し込んだのは猛暑日が続くお盆休み。暑い中、大垣市内にあるファミリーレストランにご足労いただき、お話を伺った。

ー機械工学科卒業なのに何故、工務店経営？

岐阜高専を卒業した後、三菱重工業子会社であるＭＨＩエアロエンジンサービスに就職しました。ここで５年ほど働いたのですが、実家の工務店の事業承継問題が持ち上がりました。本来は家業を継ぐはずだった兄が、岐阜大学の工学部を出たのに警察官になってしまい、戻ってきませんでした。そこで高専生の頃から現場で仕事をした経験のある私に「お前が適任だから戻って来い。」という親の説得があったという訳です。

古川工務店の本社駐車場兼機材置き場

ー事業を継承して感じたことなどは？

将来の社長候補として入社しましたので肩書きは取締役でしたが、２ 年間は現場で社員と一緒に汗を流しました。（もちろん、今でも一緒に汗を流しています！）　型枠工事では、型枠を何回か現場でも使い回しをします。１階部分のコンクリートが固まった後、型枠を外してそれを２階へ揚げるのは全て人力です。これは非常にきつかったですね。

社長になってからは、社員を養っていくためにも仕事を取ってこないといけないのですが、良い仕事をすれば利益は後からついてくる、という先義後利の信念で仕事をするようにしています。おかげさまで主要取引先の３社（佐藤工業（株）、（株）長谷工コーポレーション、TSUCHIYA 株式会社）様からは継続して発注いただいています。

ー今まで会社の危機のような状況はありましたか？

2007 年に社長を引き継ぎましたが、丁度その時、姉歯問題（建築データの偽装問題）が世間を騒がせておりました。その影響で型枠工事の単価が半分になってしまい、大変苦しい思いをしました。このときは内部留保で何とか乗り切りましたが今でも教訓にしています。

、

ー今、会社で欲しいものは何ですか？

やはり人材ですね。将来の幹部候補となる日本人の若い人材を求めます。フィリピンから優秀な外国人技能実習生も雇用していますが、最大５年で帰国してしまいます。こうした外国人や日本人の若手をまとめてくれるようになる人材を育成しないといけません。

ー高専生活での想い出は？

仲のいい５人でロックバンドを組んで活動したことですかね。担当はギターでした。ロックバンドに夢中になりすぎて仲間とともに自動車事故を起こしたことも今は想い出です。

ー後輩、現役学生に一言

私は卒業後３ヶ月で結婚し、今は男３人女１人の父親です。会社のため、子供のためにも頑張らないといけないですが、現役の学生には、よく学んで、よく遊んで欲しい。決してボーっとして無駄な時間を過ごさないで欲しい。

ー将来的な展望や、経営引退後は何を？

今は会社の経営を安定的な軌道に乗せるのに無我夢中です。引退後の具体的イメージはまだ若いのでありませんが、自分自身は車が好きなので、本当は自動車関係の仕事をしてみたかったというあきらめきれない気持ちのようなものはあります。

ー取材を終えて

今回、我々のメールマガジンである「機巣」の伊藤編集委員に、同級生である古川さんを紹介してもらった。ロックバンドを組んだ仲良し５人組のメンバーだそうだ。機械工学科を卒業して実家の製造業を継ぐ人は何人か知っているが、決して望んだわけではない全く異分野の事業を背負うという宿命も、尋常ではない苦労があるに違いない。土木建築業界の人手不足を自動化や機械化で簡単に乗り切れる訳ではないだろうが、機械工学科で学んだことが少しでも生かされたらと願いつつ取材を終えた。（文責：中尾）

左から古川さん、伊藤編集委員、筆者

、

ラグビーのある世界

吉本　敏彦（8 期生）

　私は、競技生活 40 年以上になる現役草ラガーマンです。
今年はラグビーワールドカップ（以下ＲＷＣで表現）が日本で開催されました。ラグビーを題材にしたドラマが放映され人気が出た上に、日本代表がベスト８に進出する大活躍もあって、世の中でラグビーが急に脚光を浴びるようになりました。知り合いからも、『ラグビーっておもしろいね！』『〇〇のジャッカルすごい』などの専門的な話まで出て、改めてメディアの発信力は大きいな！と感心させられました。2015 年大会のように一時的な人気でなく、今後は継続したラグビー文化が日本に根付いてくれるのを期待しています。

【筆者と妻】

　この先、生でＲＷＣを見られることはもうないだろうと思い、全国あちこちを回って観戦しました。特に、釜石での開催が決まった時は、妻と必ず行こうと話しました。そして、無事チケット（フィジー対ウルグアイ）を入手できたので、観戦に行ってきました。釜石のスタジアムは津波で流された学校の跡地にあります。その場所は自然豊かで、人々も温かく、また訪れてみたいと思わせるすばらしい環境でした。そこで、自然の力の大きさとその後の復興にかける釜石のエネルギーを感じてきました。

　ＲＷＣの話はいろいろメディアに紹介されていますのでここまでとし、自分とラグビーとの関わりを紹介します。初めて生でラグビーを見たのは、高専の時で、実習工場と寮の間にあったラグビーグランドでした。その当時は、泥だらけの姿をみて、早く風呂に入らないと風呂が茶色になってしまうぞと慌てて風呂に向かった位の記憶しかありません。
　社会人になって、ぶらぶらしていた時、豊田高専（ここでも高専つながりが不思議）出身の先輩に誘われて、ラグビー部に入りました。教わったことは、「ボールを前に投げるな」「タックルされたらボールを離せ」「チームのためになら何でもＯＫ」。いままでやっていた球技に比べ、なんとも自由で楽しい球技だと気づき、だんだんはまっていきました。付け加えると練習や試合の後に仲間と飲みに行く楽しさもあったからでしょう。

【釜石鵜住居復興スタジアム】

　８ 年間この愛知県のチームで楽しみましたが、実家の高山に帰ることになり、一度はラグビーをあきらめました。そんな時「捨てる神あれば、拾う神あり」とはよく言ったもので、『ラグビー好きの人が集まって、高山でラグビーをやろう』という募集が新聞に載っていました。早速加入し、再び楕円球で楽しめるようになりました。

40 歳を過ぎてからは岐阜惑惑クラブという不惑年齢対象のチームにも入って楽しみました。50 歳を過ぎると自分の子どもより若い人との試合はきつくなり、現在は社会人リーグを卒業して不惑ラグビーのみで過ごしています。

【ねんりんピック試合風景（中央でボールを持つ筆者）】

不惑ラグビーは交流戦がメインで、勝ち負けよりも試合後のファンクションが楽しみで、わいわいとビール片手に楽しむ上品な集まりです。通常は２から３チームでの交流戦ですが、年に 3 回大きな大会があります。

- 春の関西不惑大会
- 夏の菅平不惑大会
- 秋のねんりんピック（厚労省主催の各県持ち回りの大会）

来年は岐阜県がねんりんピック開催県となっており、ラグビーも行われます。この機会に不惑ラグビーを楽しみたいと思われる方がみえましたら、岐阜県ラグビー協会のＨＰにあるお問い合わせ欄へアクセスしてみてください。

こうして、リタイア後の生活を楽しませてくれるラグビーという競技と、毎週のように出かける自分を快く(or 呆れて)送り出してくれる妻に感謝すると共に、これからも全国各地でお会いする不惑ラガーマンに乾杯！

【数河高原で行った岐阜惑・三重惑・東惑・富惑メンバーの東海北陸合同合宿】

吉本さんは昭和 50 年に岐阜高専を卒業し、豊田工機株式会社（現　株式会社ジェイテクト）に入社されました。昭和 59 年３月からは地元高山市の株式会社和井田製作所に入社、平成 28 年 10 月に退社し現在に至っています。在職中は工作機械の開発設計業務を担当、幅広く活躍されました。そんな多忙な中でも「ラグビー」という（奥様以外の）人生最高の友と出会った馴れ初めや近況を書いてもらいました。　（文責　犬飼）

かぜのたより　　古典芸能　編

平野　紳二（6期生）

　もう１１月、霜月です。太陽暦の１１月１日は旧暦の１０月５日頃になるそうです。
旧暦で言っても神無月、もう冬の始まりです。

今回のテーマは古典芸能。
　最近は古典芸能に触れる機会を増やそうと考えています。この国に生まれ育ちながら、この国の文化のことを知らないまま老い朽ちて行くのは、ちと残念な気がするからです。
　そもそも古典芸能とは、江戸時代以前に創始され、現在にまで伝承されている、身体を用いて表現する再現可能な瞬間芸術、と言えばよいのではないかと思っています。私が鑑賞したものでは、能、狂言、人形浄瑠璃の中の文楽、歌舞伎、落語、講談でしょうか。と言っても、私は古典芸能のことを殆ど知らないのですから、以下のことは、素人の感想程度に思っていただければ幸いです。
　同じ古典でも、西洋クラシック音楽の場合は、概ねバッハ・ヘンデルからハチャトリアンやショスタコービッチあたりまでの、１８世紀初頭から２０世紀半ばまでに作曲された一部の音楽曲と言ってしまえば、当たらずといえども遠からずでしょうか。これも再現可能な瞬間芸術です。

　再現可能な瞬間芸術の特徴は、オリジナルの実体無い、と言えばよいのでしょうか。絵画や彫刻、書等はオリジナルが目に見える形でそこに存在しますから、模してみてもオリジナルを超えることは、なかなか出来ないようです。ところが再現可能な瞬間芸術は、作品を作り上げるレシピと言えば良いのか、所謂道しるべしかこの世に存在しません。オリジナルとおぼしきものを再現するために演者は、身体の動きや言葉、更に音の流れ等によって再現を試みますが、演者の器量や解釈によって、少しまたは大きく異なった作品として再現される、このことが再現芸術の大きな特徴でしょう。古典芸能は正しくそうだと考えています。

　古典が古典たり得る所以は、現代でも再現される機会がある事が必要です。そのときそのときの人々に支持され続けてきたからこそ、淘汰されずに生き残っているわけなのですから。
世間から忘れられてしまった作品に光を当て蘇らせることや、古典の時代へと身を置く努力を続けることは、十分理解できます。しかしながら古典が古典たり得るには、その芸能の支持者がある程度存在し、それが現代でも再現されるということが、生き続けている芸能だと感じています。
　古典芸能にも楽器は登場します。能や狂言では謡と笛、太鼓、大鼓、小鼓等のお囃子、文楽は太棹三味線が、歌舞伎は能の舞台が基本だったようですが、三味線や鳴り物など江戸庶民の文化を貪欲に取り入れていったようです。落語は多くの場合お囃子ぐらいですね。講談は、関東ではなさそうですが、関西は太鼓があるようです。
古典芸能は、それぞれ和楽器や謡などの声楽？が登場しますが、メインは語り、つまり言葉です。
　落語や講談は大衆芸能と言って良いと思いますが、歌舞伎もそう言わせて欲しい気もします。大衆芸能は、大衆に受け入れられるようオリジナルが変化していったことは、大いに想像できます。能や狂言はたまた文楽のオリジナルも変化しているようですが、オリジナルが変化し過ぎては、その存在自体が揺らぐことにもなるのでしょう。文楽は以前は大衆芸能のはずでしたが、最初に太夫が床本(台本)を額に掲げ、恭しく一礼をしてから始まるところをみると、これはオリジナルを忠実に再現する証みたいな気もします。

　古典芸能は、身体の動きと言葉で再現が進んで行きます。言葉はその時代時代の生活に密着したものですからどんどん変化します。古典芸能の中で使われる言葉は、作品が生まれたその時代の言葉ですから、現代に身を置く我ら大衆にとっては、なかなか判り難い存在です。従って現代人が過去の時代に出向かなければ、なかなか理解出来難いところが有ります。この点が古典芸能鑑賞者の裾野を広げる事の難しさの一つでしょう。しかし、マニアックな鑑賞者達？に言わせれば、古典が古典として存在する価値は、作品が生まれた時代を投影しているからこそで在るので、現代人に媚びることはないのだ、と言われるかもしれません。

西洋クラシック音楽は、ヘンデルやバッハ辺りからはじまるとしても、その頃の日本は江戸時代です。Ｇ線上のアリアが作曲された正確な年は定かではないようですが、概ね１７１６年の将軍徳川吉宗の享保の改革前後です。赤穂浪士の討ち入りが元禄１５年つまり１７０２年ですから討ち入りの１０年後くらいになるのでしょうか。

話は大きく横道にそれますが、今年３月京都市内で講談師神田松之丞の独演会を聞いていた時です。中入り後の演目は、赤穂義士銘々伝の神崎与五郎の詫び証文でした。来年真打ちになるこの若手講談師のファンは、若い女性が意外と多いのです。ニヒルでちょい悪な感じのイケメンです。私の斜め後部座席は２０代と思しきお嬢様方。松之丞の前振りの話の最中、小声で「忠臣蔵ってなあに？討ち入りって？」と尋ねる声が聞こえてきました。
想像つきますでしょ？ 驚きを隠せない私を。もう忠臣蔵は大衆物ではなくなったようです。

閑話休題

ザックリ言ってしまえば、西洋クラシック音楽と落語の始まりは似たような頃、と言えるのかもしれません。西洋クラシック音楽も古典芸能も再現可能な瞬間芸術であります。

西洋クラシック音楽を再現する専門家、つまりプロ達の作品再現姿勢は、オリジナルの真の姿を追求する事にあるようです。オペラやオペレッタのように歌曲を用いた演劇性のあるものを除けば、作曲家が譜面に落とした音譜の塊から、そのオリジナルの神髄をくみ取ろうとし、その神髄をくみ取ることこそが音楽家の使命のように思っている、そう感じています。

一方落語にもご存じの通り古典落語と言われているものがあります。落語は大きく大別すると落とし噺と人情噺に分けられと言われていますが、私が今良いなと感じているのは、夫婦・親子の情愛を語る人情噺が、ほろりとさせられ、好きです。
柳家さん喬師匠は、柳家小さん師匠の弟子で、弟子に柳家喬太郎を持つ噺家ですが、文七元結や井戸の茶碗、芝浜等古典落語を色々噺されますが、噺ぶりがとても上品で色っぽく、ホロリと泣ける、今私が好きな噺家の一人です。

落語は間違いなく大衆芸能です。言葉と身体のみを使う芸能です。大衆芸能はお客様在っての芸ですので、古典芸能の内でも幾らか客寄りになるようです。こんなことが談志師匠に聞こえたら怒られるかもしれませんが。とは言っても時の流れで言葉は変遷し、昔のことは馴染みが薄くなり次第に判らなくなって行きます。判らない噺を大衆はなかなか聞いてくれないでしょう。大衆芸能はそういう宿命に在ります。また、その他の古典芸能も演目によっては淘汰されます。観客に受け入れ難かったり、オリジナルが資料不足？で再現できなくなったりと、消えゆく宿命を内包しています。勿論このことは芸能全般に言えることです。

西洋クラシック音楽の場合は、楽譜というきめ細かな形のオリジナル解説書が在りますし、多くの場合言葉を使わずにメロディーやハーモニーで再現するわけです。メロディーやハーモニーは言葉でないので意味を持ちません。いや、本当は意味があるのでしょうが、モヤッとしているため作者・演者・観客が自由に決められるわけです。それが音楽の強み？でしょうか。それ故言葉のように、社会生活と密接に繋がっていないため、言葉に比べると時代的制約で感動し難くなることが、少ないように思います。その曲の１００年前と今との演奏を比べた場合、言語に頼る違和感はないはずです。そこが西洋クラシック音楽の強みであり、裾野の広さに繋がるのだと感じています。

そこへ行くと、日本の古典芸能が、国家の保護対象になるのも、頷けます。
しかしながら、古典芸能を愛し楽しんできたこの国の先人達のＤＮＡが、我々に受け継がれていることは、相違の無い事実です。従って古典芸能が判り難くとっつき難いと言う前に、自らを古典芸能へ近づける試みも、生きる楽しみを増やす一つの方法だと考えています。

雄志寮の宿直を楽しむ

井坂一男　（1 期生）

４年ほど前、母校の雄志寮の宿・日直をしないかと照会がありました。

退職して以来、対人関係を断って家で孤立することは避けようと考え、趣味の集い、講演会の聴講、座禅会への参加等、積極的に機会を見つけるようにしていました。現在は８講座ほどになって、曜日が重なる日もあり結構多忙な日々を過ごしております。

宿・日直のお話を聞いたとき、勤められるか多少躊躇しましたが、参加している講座等は、自分と同様の高齢者ばかりで、マンネリ化の雰囲気を感じていましたから若い世代と接触できる魅力を感じました。

今年度４月以降、７名が学生寮指導員という名称で勤務しており、高専卒業の OB は、私と第５期電気科卒業の小栗茂宏さん・桜井邦彦さんの３名です。

現在、寮生総員２７９名（内、５１名女子、留学生８名）が入寮しておりますが、４月で新入生がとても初々しく感じさせてくれます。

自分も同じ寮で生活したことを懐かしみつつ、後輩の皆さんの一助となればと頑張ります。

【♫機巣会から同窓会補助金をいただきました♫】

第５３回十五夜会（7M 同窓会）を２０１９年7月２３日に名古屋駅前にて開催しました。
１１名の参加でしたが、卒業以来４５年ぶりの初参加者もあり、全員が 45 年を３分ほどで語り大盛会でした。参加者（左から）
藤島、橋爪、土谷、浅野、西村、村手（旧姓：山本）、寺倉、山田、竹中、中居、西川
次回開催は、２０２０年1月１８日（土）１２：３０～「ぎふ水琴亭」の予定です。（7M 飯沼義徳）

編集後記

編集委員

６M　太田哲也

最近、YouTube で「量子力学で引き寄せチャンネル」や「中田敦彦のYouTube 大学講座」を時間があるときに見ます。とても面白いですね。僅かな時間で、あやふやな知識が埋まっていくような楽しさを感じています。学校に行かなくても学べる機会はあります。良い時代になったものです。まだまだ人生は長い！

７M　飯沼義徳

ラグビーワールドカップの余韻に浸っています。
日本チームの活躍と世界中からの日本開催に対する称賛の声に、「ラグビーっていいな。日本っていいな。」・・・と感じています。　ONE TEAM として「一所懸命頑張る」ことが周りの人を感動させています。ONE TEAM（メルマガ編集委員）の一員として来年も頑張ります

８M　犬飼宏好

先日、家内と二人で福井県へ旅行に行きました。二人とも城好きなので、坂井市の丸岡城、福井市の一乗谷朝倉氏遺跡、北の庄城址、福井城址などを巡ってきました。結構歩いたので疲れましたが、それぞれの城を自分の目で見て、歴史上の人物とのつながりを知り、とても有意義な時間でした。さて、次はどちら方面へ・・・・・

１５M　中尾賢治

最近、以前からの英会話教室に加えて、２つ目の教室に通い始めた。ここで、英語がよくできるなーと思った若者がおり、どこに勤めているのかと話をしていると何と高専の機械工学科同級生の部下だった。１つ目の教室で親しくしてくれる老人の甥も高専卒業の有名企業の経営者（電気科の卒業生だが）。世間は狭いと感じたこの頃だった。

２４M　山田　実

高専祭にこられた OB の方は気づかれたと思いますが，今年，岐阜高専はあちこちで改修工事をしています．夏には専攻科棟の空調設備と建築科棟の改修工事が終わり（このため夏は冷房なしで過ごしました），すぐに図書館センター，寮のＢ寮，敷地南側のインフラ改修が始まりました．少しずつ岐阜高専も変わってきています．

３３M　伊藤友裕

今の仕事も長くなり、そろそろ他の仕事にでも変わろうかと思っていた矢先、未確定ながら会社から異動の打診がありました。あまりのタイミングに、仕事の態度に出ていたのかなと思う反面、会社も社員のことを見ていることもあるんだなと思った今日この頃です。

発行日／２０１９年１１月２０日
責任者／中野廣幸　　**発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巣会」編集室**
〒501-0495　岐阜県本巣市上真桑２２３６番地２
TEL　058-320-1343　　FAX　058-320-1349
http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/main/ob/ob.html